

平成29年度
学校評価報告書



学校法人四天王寺学園 四天王寺小学校

学校評価検討委員会

目 次

1.	目次	1
2.	はじめに	2
3.	建学の精神	3
4.	学校教育目標	4
5.	今年度重点目標 Plan 評価方法	5
6.	評価結果の分析と考察	6
7.	保護者アンケートの結果	16
8.	学校関係者評価	18

以上

はじめに

学校の自主性・自律性が高まる上で、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展をめざすことが重要です。また、学校が説明責任を果たし、家庭や地域、関連校との連携協力を進めていくことが求められています。

文部科学省は、学校教育法を平成19年6月に改正し、第42条においては、学校評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図り、教育水準の向上に努めることを規定しました。また第43条においては、学校の情報提供に関する規定を新たに設けました。さらに、上記の学校教育法改正を受けて、学校教育法施行規則を平成19年10月に改正し、現在に至っています。

本校では、教育活動をはじめとする学校運営の状況について評価し、その結果についての説明責任を果たしつつ学校自ら改善を行っています。また、その結果に応じて設置者が必要な支援等を行い、本校における教育水準の向上・保証を目的とした学校評価システムの構築とその更なる充実・改善を図っているところであります。

平成21年4月開校の本校は、平成22年度に学校評価検討委員会を設け、学校評価をどのように導入するかについて検討し、平成22年度は「自己評価」を実施しました。平成23年度より、「自己評価」の内容を精査し、より実態に即した内容で評価項目を設定して実施してきました。また、平成24年度より、「学校関係者評価」として後援会実行委員会4役（会長、副会長、会計、会計監査）の皆様からの評価（ご意見）もいただいております。さらに平成26年度からは、保護者のお声を自己評価に反映させるべく、「保護者アンケート」を実施し、自己評価の充実に努めました。この学校評価により、児童がより良い教育活動を今以上に享受できるよう、学校運営の改善を図り、本校が益々発展することをめざしてまいります。

平成30年3月31日
四天王寺小学校
校長 吉田 晃

■ 建学の精神

学校法人四天王寺学園は、聖徳太子がすべての衆生を救わんとする大乘仏教の精神を具現化するために、推古元年（西暦593年）に四箇院の制度を取り入れた四天王寺を建立されたことに始まります。四箇院とは、貧しい人々を救済する悲田院、病人の治療にあたる療病院、薬を分け与える施薬院、仏を敬い、仏教の尊い教えを守って諸悪をなさず、善行を修め、仏の智慧をさとり、知識や技能を修得する敬田院をさします。

この四箇院の制は、1400余年連綿と受け継がれ、悲田院、療病院、施薬院は社会福祉法人四天王寺福祉事業団が継承し、敬田院の教育事業は学校法人四天王寺学園が引き継ぎ、今日に至っています。敬田院は、仏に帰依し悪をなさず他者のために善行を修め、自己の実現に努める人間形成の場です。すなわち「他者や物事の内に潜む善さを信じ、その実現を願うところに自己の善さの実現も可能となる（帰依渴仰）。そのためには人々や物事の善悪を思慮し、相互に省みること悪を断ち、善の実践に努める（断悪修善）。そのなかで共々の善さを実現することが可能となる（速證無上）。あなたにとっての善さは私にとっての善さであり社会への貢献は相互の善さを具現化する営みに他ならない。そのための思慮と省察の積み重ねにより他者と共に己の計らいを超えた生命のもとで生きる意味を覚りゆくところである（大菩提處）。」とされており、今も建学の精神として受け継がれています。

また、大正11年に吉田源應大僧正によって創立された「天王寺高等女学校」に始まるその長きにわたる中等教育、高等教育機関としての歴史と伝統のなかで、人間の人格形成に多大な影響を及ぼす幼少期の教育に寄与することが、社会に対して一層の貢献となることを確信し、四天王寺学園小学校が設立されるに至りました。

学園訓

- 一、和を以て貴しとなす
- 一、四恩に報いよ
四恩とは
国の恩
父母の恩
世間の恩
仏の恩なり
- 一、誠実を旨とせよ
- 一、礼儀を正しくせよ
- 一、健康を重んぜよ



■ 学校教育目標

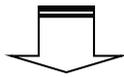
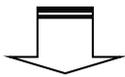
聖徳太子の「利他と和」の精神を礎に
志高く豊かな日本のこころを育む

建学の祖である聖徳太子の仏教精神を礎に、「知育」「徳育」「体育」と、古来より
私たち日本人が大切にしてきたものの継承に重点をおいた教育に取り組みます。

仏教精神を基盤にした普遍的価値を学ぶ人間教育

- ・ 真のエリートをめざした智慧と教養を身につける・・・・・・・・知
- ・ 自国の伝統や文化を理解し、誇りに思えるようにする・・・・知
- ・ 勤勉、誠実、謙虚な心を大切にする・・・・・・・・徳
- ・ 正しい振る舞いや正しい礼儀を実践する・・・・・・・・徳
- ・ 他者への優しさをもち、親や祖先を大切にする・・・・・・・・徳
- ・ 自然に対する畏敬の念をもつ・・・・・・・・徳
- ・ たくましい健康な心と体をつくる・・・・・・・・体

宗教教育（礼拝・瞑想・宗教の時間）・教科指導・特別活動・生活指導



体験を通して普遍的価値を知る

教科を通して知恵と教養を学ぶ

活動を通して心身を鍛える

- ・ 文化や伝統を学び、継承する
- ・ 礼儀作法を学ぶ
- ・ 情緒を感じる
- ・ 武道に親しむ

- ・ 読み、書き、計算の基礎技能
と基礎的な知識を習得する
- ・ 思考力、応用力を伸ばす
- ・ 表現力を鍛え、感性を高める

- ・ 基礎体力を身につける
- ・ 多様な動きを習得する
- ・ 健康や安全に関心をもつ
- ・ 規範意識を身につける

総合的な学習の時間
特別活動（クラブ活動等）

国語、算数をはじめとする
各教科・補習

保健体育・給食指導
特別活動・学校行事

■ 今年度重点目標 Plan

本校の教育活動では、前項に掲げた「建学の精神」、および「学校教育目標」に貫かれている仏教の精神を基盤とした教育は、その運営から実践面に至るまで種々の専門的観点において目標化し、取り組んでいく必要がある。

「利他と和」の精神、すなわち「他者の利益を重んじ、お互い助け合う。」ことの大切さを児童育成の基本理念に掲げ、心の教育を充実させるべく、「Plan 1. ～ 9.」の重点目標を設定することとした。

1. 学校運営：教育目標の実現に向け、教職員が一丸となった学校運営を行う
2. 仏教教育：仏教精神を生かした学習に取り組み、望ましい人格形成を行う
3. 学習指導：学習活動や行事運営の計画的な実施を心がけ、日々の授業の効果を高める
4. 入試広報：効果的な入試広報活動を行い、本校が求める児童募集をめざす
5. 健康教育：児童の健やかな成長に向けて、保健的・体育的な指導の内容を高める
6. 生活指導：安全教育や集団づくりに取り組み、規律正しい生活習慣を確立する
7. 研究研修：教員の資質や授業力を向上させるため、研究・研修を実施する
8. 人権教育：人権侵害やいじめの実態を把握し、適切な指導や未然防止に取り組む
9. 進路指導：児童や保護者のニーズに応える進路指導をめざす

■ 評価方法

今年度重点目標「Plan 1. ～ 9.」の達成度を検証するために、各重点目標に評価項目 Do を設け、以下のような形でアンケートを実施した。尚、経年比較を確認するため、質問内容は前年度とほぼ同じものを用いている。

- 1) 実施対象： 回答教員 実施数（21名）
- 2) 実施形態： 自己評価によるアンケート
- 3) 評価項目毎に4段階で評価し、分析と考察を行う
A(当てはまる) B(やや当てはまる) C(あまり当てはまらない) D(当てはまらない)
- 4) 評価点算出式： $5 \times A\% + 4 \times B\% + 2 \times C\% + 1 \times D\% =$ 評価点

教員の自己評価に加え、保護者アンケートの実施結果を掲載し、併せて関係者評価として学校関係者評価委員会の方々のご意見をまとめさせていただいた。

■ 評価結果の分析と考察

Plan 1. 学校運営：教育目標の実現に向け、教職員が一丸となった学校運営を行う

(評価の目標点 400)

No.	項目【Do】	割合 (%)				得点	得点
		A	B	C	D	H29	H28
1	教育目標の実現に向け、児童の実態を考慮した計画を作成する。	29	57	14	0	401	344
2	小学校の教育理念や教育目標に基づく教育活動を行う。	29	61	10	0	413	364
3	教員の児童募集に対する意識を高揚させる。	15	70	10	5	380	376
4	管理職や教職員同士の相互理解や信頼関係に基づいて教育活動を行う。	33	38	24	5	370	310

Plan 2. 仏教教育：仏教精神を生かした学習に取り組み、望ましい人格形成を行う

(評価の目標点 400)

No.	項目【Do】	割合 (%)				得点	得点
		A	B	C	D	H29	H28
5	本校の教育目標に沿ったカリキュラムを作成する。	6	67	27	0	348	352
6	種々の宗教行事を指導に生かす。	11	47	37	5	321	318
7	宗教の時間（道徳）の指導時数を確保する。	50	44	6	0	439	453
8	宗教の時間を始め、教育活動全般を通して仏教精神を生かした指導を行い、望ましい人格形成に成果をあげる。	15	55	30	0	355	394

Plan 1. 学校運営：教育目標の実現に向け、教職員が一丸となった学校運営を行う

(評価の目標点 400)

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
1	習熟度別指導も2年目になり、児童の実態にあった運用に改善されてきた。	計画的に担当学年での情報交換を行い、更なる児童の実態把握に努める。
2	点数の向上から共通理解が進んだことが窺える。	年度初めに共通理解の場を多く設定することで、効果的な共有をはかる。
3	評価点数の変化は見られないが、児童募集については成果が見られた。	児童募集の成果を共有し、更なる意識の向上につなげる。
4	評価点数が向上はしているものの、更なる教員相互の理解と連携を進める必要がある。	目標の具現化を進める中での意見交換を重視し、教員相互の理解と連携を進める。

Plan 2. 仏教教育：仏教精神を生かした学習に取り組み、望ましい人格形成を行う

(評価の目標点 400)

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
5	「利他と和」の精神を具現化するカリキュラム構成が不十分であった。	「宗教の時間」、宗教行事の指導を見直し、人格形成の強化をはかる。
6	本校の宗教行事の内容が教員間で浸透していない。	研修等を行ない、教員間で浸透させていく。
7	例年通り「宗教の時間」の指導時数は確保できており、昨年に続き目標を達成している。	同様の取り組みを継続する。
8	仏教に対する教員の意識が高まった分、厳しい評価につながった。	同様の取り組みを継続し、児童への一層の定着をめざす。

Plan3. 学習指導：学習活動や行事運営の計画的な実施を心がけ、日々の授業の効果を高める
教務（評価の目標点 400）

No.	項目【D○】	割合（％）				得点	得点
		A	B	C	D	H29	H28
9	効果的な教科、領域のカリキュラムを立てる。	15	60	20	5	360	375
10	適切な一日の校時計画を立てる。	30	55	15	0	400	377
11	授業を年間指導計画通りに進める。	21	58	21	0	379	360
12	チャイムと同時に授業を開始する。	42	47	11	0	421	429
13	丁寧な発問・質疑応答をする。	40	55	5	0	430	435
14	持たせた副教材はすべて十分に活用する。	35	50	15	0	405	441
15	公平で正しい評価をする。	53	47	0	0	453	471
16	学力不振の児童に対して適切な指導と支援を行う。	32	63	5	0	421	366
17	個に応じた指導を行い、学力の向上をめざす。	26	63	11	0	405	388
18	妥当な年間行事計画を立てる。	35	50	15	0	405	342

Plan 3. 学習指導：学習活動や行事運営の計画的な実施を心がけ、日々の授業の効果を高める
教務（評価の目標点 400）

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
9	全体的なカリキュラムの見直しは行ったが、領域毎の更なる精査が必要である。	領域毎の再編成を急ぎ、総合的なカリキュラムの改善を進める。
10	校時に沿って適切に教育活動が進められている。	午後の5分休憩を10分にすると検討や、中学校の校時との調整の必要がある。
11	年間計画に従って授業を進めているが、教科によっては、計画の不備や児童の実態に合わず、指導の徹底が図れないことがあった。	授業の先取り計画の十分な検討と、教科間の連絡調整を密にとり、学校全体としてのビジョンを明確にする。
12	チャイムを守る指導の徹底を図り、児童、指導者とも、校時を守ろうとする意識の高まりが見られた。	今後も継続して指導する。
13	児童の発達段階や問題解決の過程を意識した発問に努め、主体的な学習活動を促す発問や助言を心がけている。	個々の指導者の意識に任されている部分ではあるが、学校としての基本的なスタンスを指導者が共有できるようにする。
14	指導時間や家庭学習の場をうまく活用し、指導内容の定着を図るよう、副教材を有効に活用している。	教科によっては十分使い切ったとはいえない部分もあり、採択の再検討が必要である。
15	児童一人ひとりの学習過程も大切に評価し。評価項目に沿った評価ができるように努めている。	アクティブラーニングの評価について、共通理解を図るようにする。
16	補習時間の指導体制は見直したが、学力不振児への個別指導は十分とはいえない	補習時間のさらなる見直しを図り、補習の目的を明確にして手厚く指導できるようにする。
17	習熟度別や少人数制授業を採用し、教材を工夫して個に応じた指導に注力した。	座席表等を指導に生かしてポートフォリオを作成して授業に生かす。また、個を生かす教材教具の開発を進める。
18	学校の基本方針に沿った、年間行事を作成し、多様な教育活動を偏りなく実施している。	大切な学校行事や体験的な活動を有する行事を、時期に偏りないよう配置する。

Plan4. 入試広報：効果的な入試広報活動を行い、本校が求める児童募集を目ざす

教務（評価の目標点 400）

No.	項目【Do】	割合（％）				得点	得点
		A	B	C	D	H29	H28
19	効果的な広報計画、広報活動を行う。	40	50	10	0	420	395
20	適切な情報の発信（HP等）を行う。	44	50	6	0	433	417
21	入試において、本校が求める児童を集める。	17	56	17	10	353	348

Plan5. 健康教育：児童の健やかな成長に向けて、保健的・体育的な指導の内容を高める

教務（評価の目標点 400）

No.	項目【Do】	割合（％）				得点	得点
		A	B	C	D	H29	H28
22	健康・安全・保健に関する、児童の発達段階に応じた年間指導計画を作成する。	47	53	0	0	447	395
23	健康診断、健康観察、保健相談等により、健康保持、事故防止を適切に行う。	70	30	0	0	470	417
24	適切な教育相談、カウンセリングを行う。	45	45	10	0	425	348
25	体育行事を計画的かつ適切に実施し、児童の健康保持、体力向上に成果をあげる。	68	32	0	0	468	381
26	給食の食べ方やマナー、栄養指導といった食育指導を適切に行う。	25	65	10	0	405	357
27	正しい掃除の仕方を指導するとともに清掃用具の整備を行い、清潔で美しい学校づくりを行う。	40	55	5	0	430	401

Plan4. 入試広報：効果的な入試広報活動を行い、本校が求める児童募集を目ざす

教務（評価の目標点 400）

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
19	広報計画を戦略的に立て、児童募集にあたった。各イベントのねらいを明確にすることで、効果的な広報活動となった。	学校行事の拡大や、校外での説明会や講演などを通して、本校の良さをより多くの方に伝える。
20	学校行事や日々の授業についてのブログ更新を行う教務部との連携が不足していた。	常に最新情報が掲載されているようにチェック機能をさらに強化する。
21	求める児童像（アドミッションポリシー）に賛同する出願が増加した。	小学校で伸び続ける力を正しく測れるように入試問題を検討する。

Plan5. 健康教育：児童の健やかな成長に向けて、保健的・体育的な指導の内容を高める

教務（評価の目標点 400）

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
22	児童が理解しやすい指導を目指し、生きる力となるよう健康教育を推進した。	今後も充実した健康教育を推進し、健やかな成長と発育を促す。
23	健康相談活動を通して保護者の子育て支援を行い、健康診断等から適正な医療受診を進め良好な関係を築くことができた。	児童の日々の心身の健康観察判断の共有を更に進める。
24	保護者の希望に沿ってカウンセラーの活用を促し、医療機関の紹介も行った。	保護者のカウンセリングへの希望の可否に伴う対応も考える。
25	体育的行事や授業の充実により、健康保持や体力・運動能力の向上につながった。	「四天王寺体操」の実践を進め更なる体力・運動能力の向上に努める。
26	目標点も達成できており、各学級での給食指導が行き届いていると思われる。	食育指導の内容を更に充実させ、各学級での食事マナーを徹底する。
27	分担場所が複数のため目が行き届かず、真剣に掃除が出来ていないときがある。	教師間での共通理解を徹底し、他クラス・他学年児童への指導も積極的に行う。

Plan 6. 生活指導：安全教育や団づくりに取り組み、規律正しい生活習慣を確立する

(評価の目標点 400)

No.	項目【Do】	割合 (%)				得点	得点
		A	B	C	D	H29	H28
28	安全生活指導(防災訓練)を計画的に実施し、危機管理意識を向上させる。	74	26	0	0	474	393
29	交通安全指導が適切に計画・実施する。	60	35	5	0	450	365
30	学校のきまりや公共のルール、マナーを順守させる。	20	65	15	0	390	377
31	いじめや問題行動に素早く対応するとともに、未然に防ぐ指導を行う。	35	65	0	0	435	424
32	縦割り活動を計画的に実施し、異年齢集団の交流を行う。	85	15	0	0	485	435

Plan 7. 研究研修：教員の資質や授業力を向上させるため、研究・研修を実施する

(評価の目標点 400)

No.	項目【Do】	割合 (%)				得点	得点
		A	B	C	D	H29	H28
33	校内研修や授業研究会を行い、教員の資質を高める。	5	10	50	35	200	427
34	多様な学力観に対応できるよう研修を行い、授業改善に生かす。	5	20	45	30	225	393
35	いじめ問題を正しく理解し、適切な指導ができるよう研修を行う。	10	55	25	10	330	405
36	モジュールタイムの計画と運用を適切に行い、児童の学力向上に役立てる。	27	68	5	0	417	377

Plan 6. 生活指導：安全教育や団づくりに取り組み、規律正しい生活習慣を確立する

(評価の目標点 400)

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
28	計画的に実施を行った防災訓練等を通して、児童の危機管理意識は向上している。	防災訓練等の中身をさらに充実させるようにする。
29	学期末に登下校班で話し合う機会を設けたところ、児童の意識が向上した	話し合った内容を日々の登下校にもいかし、更なる向上を目指す。
30	あいさつや持ち物、校内の過ごし方について徹底できていない部分があった。	教員間での共通理解を図り、児童への一貫した指導を徹底する。
31	事案が発生した場合には、いじめ防止対策委員会を設置し適宜対応できた。	いじめのない集団を形成するための前向きな指導を徹底したい。
32	毎週の集会やたいし子どもまつりなどを通して、異年齢集団の交流を図れた。	たてわり遠足など、より交流が図れる行事を模索する。

Plan 7. 研究研修：教員の資質や授業力を向上させるため、研究・研修を実施する

(評価の目標点 400)

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
33	行事作りを通して探究学習の素地作りに重点を置いて取り組んだが、教員のニーズに合っていなかった。	効果的な研修になるように、現場の状況に応じて柔軟に実施する。
34	昨年度に比べ授業研究や研修会の実施回数が少なかった。	日常授業を通しての実践に重きをおいて授業研究に取り組む。
35	いじめ問題には素早く対応できたが、研修として実施する機会は少なかった。	いじめを起こさない事にも重点を置いて研修に取り組む。
36	今年度から始まった英語のモジュール学習も成果をあげており、全体としても効果的な活用の意識が高まっている。	今年度に引き続き、始業前の児童の管理について改善をすすめる。

Plan 8. 人権教育：人権侵害やいじめの実態を把握し、適切な指導や未然防止に取り組む

(評価の目標点 400)

No.	項目【Do】	割合 (%)				得点	得点
		A	B	C	D	H29	H28
37	児童の実態に即した人権教育の年間指導計画（内容・時数）を作成する。	6	70	24	0	358	374
38	日々の教育活動に人権教育の成果を活かす。	26	58	16	0	395	441
39	児童間で人権侵害事象を起こさせない。	16	63	21	0	374	306
40	児童への人権侵害と思える言動を発しない。	60	35	5	0	450	435
41	教職員への人権侵害と思える言動を起こさせない。	37	53	5	5	411	429
42	いじめ防止等対策の組織を機能させ、いじめの防止早期発見・対処に役立てる。	28	56	16	0	396	377
43	心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるようないじめを認めない。	65	35	0	0	465	399

Plan 9. 進路指導：児童や保護者のニーズに応える進路指導をめざす

(評価の目標点 400)

No.	項目【Do】	割合 (%)				得点	得点
		A	B	C	D	H29	H28
44	進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設ける。	39	49	6	6	407	393
45	児童に進路希望に沿った進路指導を行う。	34	44	11	11	379	379

Plan 8. 人権教育：人権侵害やいじめの実態を把握し、適切な指導や未然防止に取り組む

(評価の目標点 400)

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
37	人権教育年間計画を作成したが、計画通りに実施できたとは十分言えない。	道徳の教科書や副読本を活用し、更に児童の内面に迫れるようにする。
38	人権教育で学んだ内容と日常生活とが結びついていると十分に実感できなかった。	教育活動全体で人権教育のあり方や位置づけを再考する必要がある。
39	日々留意し指導しているが、相手の人権を侵害するような事例がいくつか見られた。	協同的な学びや行事での関わりを充実させより良い関係作りを進める。
40	言動には十分留意し、子どもに寄り添った指導を行うことができた。	子どもの立場に立った言動を心がけ、継続して取り組んでいく。
41	教職員が、子どもの立場を尊重し、適切な指導を心がけている成果が見られた。	教職員に対する人権尊重の意識を大切にして継続して取り組んでいく。
42	いじめ防止対策委員会を設置し、事案があった場合に迅速に対応することができた。	いじめ防止対策委員会を定例化し、防止のために積極的に取り組む。
43	いじめを認めないという毅然とした態度を示すことができた。	児童間のつながりをさらに深め、良好な関係作りを進める。

Plan 9. 進路指導：児童や保護者のニーズに応える進路指導をめざす

(評価の目標点 400)

No.	結果分析【Check】	次年度以降の対策
		【Action】
44	内部進学に関しては中学校との連携がとれ、計画的に説明会を実施することができた。	今後とも安心して内部進学できる環境を整えていくよう、適切な情報提供を押し進める。
45	クラブ見学などを通して中学校生活について児童が見通しを持つことができたと思われる。	さらに中学校と連携し、児童が安心して進学できるような説明会や見学会を計画していく。

■ 保護者アンケート集計 全校 84.4%

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料			
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	1-A	2-B	3-C	4-D
1	建学の精神に則り、学校運営がなされている	98	95	20	4	217	45	44	9	2	45	44	9	2

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料			
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	1-A	2-B	3-C	4-D
2	仏教教育を基盤にした人間/教育が学校教育基盤に根付いている	97	93	22	5	217	45	43	10	2	45	43	10	2

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料			
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	1-A	2-B	3-C	4-D
3	確かな学力の定着に向けた教育課程が設けられ、工夫された授業が展開されている	78	87	43	9	217	36	40	20	4	36	40	20	4

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料			
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	1-A	2-B	3-C	4-D
4	将来を見据えた教育環境や教育内容を創意工夫し、日々の教育実践に生かされている。	63	89	54	11	217	29	41	25	5	29	41	25	5

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料													
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	1-A	2-B	3-C	4-D										
5	たくましい健康な体作りと健全な精神の育成がなされている。	73	103	35	6	217	34	47	16	3	<table border="1"> <caption>資料 (Item 5)</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-A</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>2-B</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>3-C</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>4-D</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>				Category	Count	1-A	34	2-B	47	3-C	16	4-D	3
Category	Count																							
1-A	34																							
2-B	47																							
3-C	16																							
4-D	3																							

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料													
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	1-A	2-B	3-C	4-D										
6	仲間作りを通して個性が尊重され、いじめのない人間関係の醸成がなされている。	69	101	32	12	214	32	47	15	6	<table border="1"> <caption>資料 (Item 6)</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-A</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>2-B</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>3-C</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>4-D</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>				Category	Count	1-A	32	2-B	47	3-C	15	4-D	6
Category	Count																							
1-A	32																							
2-B	47																							
3-C	15																							
4-D	6																							

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料													
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	1-A	2-B	3-C	4-D										
7	愛校心を育み、高い規範意識をもった子どもを育てている。	69	101	38	8	216	32	47	18	4	<table border="1"> <caption>資料 (Item 7)</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-A</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>2-B</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>3-C</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>4-D</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>				Category	Count	1-A	32	2-B	47	3-C	18	4-D	4
Category	Count																							
1-A	32																							
2-B	47																							
3-C	18																							
4-D	4																							

A (当てはまる) B (やや当てはまる) C (あまり当てはまらない) D (あてはまらない)

No.	項目	人数					割合 (%)				資料													
		A	B	C	D	計	A	B	C	D	1-A	2-B	3-C	4-D										
8	児童やご家庭の実態と希望に応じた適切な進路指導がなされている。	69	94	39	15	217	32	43	18	7	<table border="1"> <caption>資料 (Item 8)</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-A</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>2-B</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>3-C</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>4-D</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>				Category	Count	1-A	32	2-B	43	3-C	18	4-D	7
Category	Count																							
1-A	32																							
2-B	43																							
3-C	18																							
4-D	7																							

■ 学校関係者評価

学校関係者評価委員の方々より評価をいただきました。校内における自己評価の集計結果や日常の教育活動についてのご意見をまとめさせていただきました。

1. 学校運営・学年運営・学級運営

全体としておおむね満足しています。先生方の密な連携を今後もお願いしたいと思います。

新しい学校なので教育方針が変わるのはしかたありませんが、その分保護者へのフォローもしっかりとお願いします。

新たな入学希望者を増やすべく、色々と取り組まれていると思います。たいし子ども祭りは、これから一層期待を持てる行事だと思います。地域との関りを持つことを大切に考えておられ、それが今後の学校運営をより良くしていってけると期待します。

2. 仏教教育

仏教に基づく教育も安定してきていると思います。教員の方々の意識向上は、これから子ども達の成長にもつながっていくと思うので良いことだと思います。

「ともいきタイム」「ともいきの集い」と、いろいろな先生方からお話を聞く機会があり、心の成長を感じます。

言葉の意味を理解して、ゆっくりと感じることで折れない心が育まれているのだと思うので、自分自身と向き合う時間もあればいいなと思います。

3. 教務

教科毎の習熟度別のクラスは、子どもにとって勉強が分かりやすいだけでなく勉強する環境が選べていいことだと思います。ただ、担任の先生に見ていただく時間が減り、担任の先生が学習面において「どこが理解できていない」「苦手なところ」の把握が難しくなると思いますが、教科担当の先生が担任でない場合も懇談時に話をしていただける様に連携を蜜にしてほしいです。

4. 入試広報

たいし子ども祭りで、学校の雰囲気を感じられる場となりとてもよいイベントで広報にもなったと思います。

親しみやすいイラストの使用などで最近のパンフットなどは見やすく堅苦しくない感じがしていいと思います。周囲からも可愛いパンフレットだねとよく言われます。

年々、学校の取り組みが外部へ伝わっていると思います。来年度入学される保護者の方とお話する機会がありましたが、塾の先生も高く評価してくださっているとのことでした。ただ、日能研が入る時期が低学年からと思われていたようですので、カリキュラムの説明は何度も

くわしくした方がよいと感じました。

入試前の子どもを持つ親が学校選びで考えるのは「学校の内容」と同じくらいの割合で「通いやすさ」だと思います。近鉄沿線以外で、車だとすぐだけど電車だと乗り継ぎが難しいと思われる方は「スクールバス」があれば安心して選ばれるのではないかと思います。

5. 健康教育

学校内での怪我や病気などへの対処はとても良いと思います。連絡なども丁寧で親としてはとても安心できます。

パワーアップタイムなどで体を動かすことで体カアップにつながるいい時間を持っているように思います。

6. 生活指導

縦割り班活動は、子ども達も楽しそうなので良い活動だと思います。たいし子ども祭りはとてもよかったと思います。オーケストラの鑑賞もとても興味を持ったようでした。登下校指導など安全面での指導は良くできていると思います。

電車、バスなどの公共機関でのマナーを再確認してほしいと思います。

7. 研究研修

各学年に見合った宿泊学習での体験を通じて大きく成長を感じることができます。

8. 人権教育

学校に公立の支援学級のようなクラスがないため、障害者を思いやったり認めたり、身近に感じる機会が少ないと思います。世の中にはいろいろな人たちがいることを知り、認めることでいじめがなくなるきっかけになるかも知れないので、何か機会があればと思います。

学校内のことは早期に気づいて対応してくださることがいじめ予防に大きく関係すると思います。

9. 進路指導

中学校のいい所（施設など）も開放していただければ良いのにはと思います。部活などもたまには合同で出来たりすると良好な関係を築いていけるとと思います。

内部進学を勧めるのであれば、小学校との連携をアピールできるところを作ったほうが良いと思います。中学校の情報も順次発信していただきたいです。

内部進学・外部進学への対応をもう少ししてほしいです。

平成 2 9 年度
四天王寺小学校学校評価報告書

平成 3 0 年 3 月 3 1 日 発行

発行責任者 学校法人四天王寺学園

四天王寺小学校 学校評価委員会